

主題研究

# 児童相互の好ましい人間関係を育てる 学級経営の在り方に関する研究

- 学級経営プログラムの作成と活用をとおして - （第1報）

教科領域教育室 藤川 公子

研究協力校

花巻市立湯口小学校

## 研究の概要

この研究は、学級経営プログラムの作成と活用をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方を明らかにし、小学校における学級経営の充実に役立てようとするものである。

本年度は、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めるための二つの視点「年間を見通した段階的な指導」と「教育活動全体による組織的な指導」を明らかにし、その視点に基づいた学級経営プログラムの作成を進めた。その結果、教育活動相互の関連を図った四つのプログラム「理解し合う関係づくり」、「認め合う関係づくり」、「協力し合う関係づくり」、「尊重し合う関係づくり」を作成した。

キーワード：学級経営 人間関係 プログラム 年間指導構想 教育活動全体

## 研究目的

小学校学習指導要領総則には、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てることの重要性が示されている。学級経営の充実を図るためには、学級を構成する児童一人一人が、学級集団の人間関係の中で安定した立場を得て、互いに心理的な圧迫がなく、学級全体が協調的、協力的である、児童相互の好ましい人間関係を育てることが必要不可欠である。

しかし、現在、学校教育で問題となっている学級崩壊、いじめ、不登校等が学級の人間関係に起因していることが多い。このことは、家庭や地域における児童の人間関係の希薄さや社会体験の不足から、他者との適切なかわり方を学ぶ機会が少なくなってきたことと、学級内の人間関係の修復を図る指導にとどまっている状況が多いことによると考えられる。

このような状況を改善していくためには、学級経営全体を人間関係を育てるという視点から見直し、学級におけるさまざまな活動や場を整理し、相互の関連を図った学級経営プログラムを作成し、それに基づいた意図的、計画的な指導を進めていくことが必要である。

そこで、この研究は、学級経営プログラムの作成と活用をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方を明らかにし、小学校における学級経営の充実に役立てようとするものである。

## 研究仮説

小学校学級経営において、以下の視点に沿って、児童相互の人間関係を育てる指導を意図的、計画的に進める学級経営プログラムを作成し、児童の人間関係の育ちに応じて活用すれば、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めていくことができるであろう。

- (1) 年間を見通した段階的な指導
- (2) 教育活動全体による組織的な指導

## 本年度の研究の内容

### 1 研究の目標

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案するとともに、学級経営プログラムを作成する。

### 2 研究の内容

- (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本的な考え方の検討及び基本構想の立案
- (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

## 研究結果の分析と考察

### 1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想

- (1) 児童相互の好ましい人間関係についての基本的な考え方

教育課程審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について（平成10年7月29日）」の答申では、「生きる力」を育成するためには、「学校が伸び伸びと過ごせる楽しい場であること 興味・関心のあることにじっくり取り組めるゆとりがあ

ること わかりやすい授業が展開されること」について述べられた上で、その基盤として、「子どもたちの好ましい人間関係や子どもたちと教師の信頼関係が確立し、学級の雰囲気も温かく、子どもたちが安心して自分の力を発揮できるような場でなければならない」としている。

児童と児童の間に好ましい人間関係が保たれている環境では、児童は伸び伸びと過ごし、自分のよさを見だし伸ばそうとする。そして、他者から自分がかげがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感し、存在感と自己実現の喜びを実感する。さらには、学習することの喜び、周りを思いやる大切さ、集団ルールの意義、仲間との付き合い方など人間として身に付けるべき大切なことを学んでいくことができる。したがって、児童相互の好ましい人間関係は、児童が有意義な生活を実現し、豊かな人間性や社会性を身に付けていくためにきわめて重要である。

児童相互の好ましい人間関係とは、信頼の絆で結ばれた温かな関係であると考えられる。このような人間関係は、次のようなプロセスを経て成立すると考える。まず、児童と児童が触れ合い、交流し、互いを理解し合う「相互理解」の関係の成立が基盤となる。「相互理解」の関係は、児童間の交流の機会が増えるとともに徐々に深まり、自他のよさや違いは互いを特徴付ける個性として認知されるようになる。このとき、互いの個性を肯定的に受け止め合う「相互受容」の関係が成立することにより、児童は心理的な安定感を得、他者への信頼感を抱くようになる。他者への信頼感は、互いに協力し合う「相互協力」の関係の成立によってさらに深まる。すなわち、共通の目的に向かって助け合いながら活動することによって、互いを信頼できる他者としてとらえることができるようになる。

さらに、他者の立場を思いやり、互いの向上を願いながら、思いや考えを尊重したかわりをする「相互尊重」の関係が成立することで、児童相互の信頼関係は確かなものとなり、維持されると考える。

そこで、本研究で目指す児童相互の好ましい人間関係を構成する要素を【表1】に示すように、「相互理解」「相互受容」「相互協力」「相互尊重」ととらえる。

【表1】 児童相互の好ましい人間関係を構成する要素

要素	意味
相互理解	互いの個性を理解し合う関係
相互受容	互いの個性を肯定的に受け止め合う関係
相互協力	互いに助け合い、協力し合う関係
相互尊重	互いの思いや考えを尊重し合う関係

## (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方

学級経営は、小学校学習指導要領解説特別活動編（平成11年5月）において、「担任教師が学校の教育目標や学級の実態を踏まえて作成した学級経営の目標・方針に即して、必要な人的・物的条件の整備を行い、運営・展開されるもの」と定義されている。学級の人的条件の整備は、教師と児童及び児童相互の人間関係の調整を図る営みである。中でも、児童相互の人間関係の調整や育成は、学習指導の円滑かつ効果的な運営のための手段としてのみならず、児童の人間形成に直結する目的としての人間関係づくりであり、学級経営の中核である学級づくりを支えるものである。

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、年度当初は「群れ」といわれる学級集団において、個や集団に働きかけ、児童相互の関係性を深め、好ましい方向へと発展させる年間を通じた長期的な営みである。このような学級経営を可能にするのは、学級担任の教師の明確な経営のビジョンの有無である。すなわち、年間の「どの時期」に、「どのような人間関係」を育てていくことをねらい、進めていくのかについての指導の構想をもち、児童相互の人間関係の深まりに応じた段階的な指導の方途を計画することが必要である。

また、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、あらゆる教育活動において機能していくものであると考える。そこで、教育活動全体をとらえて児童相互の好ましい人間関係を育てていくた

めに、年間の指導の構想に基づき、「どの教育活動」において「どのような指導・配慮」をしていくのかについての具体的な構想をもち、それぞれの教育活動の関連を図りながら組織的に進めることが重要であるとする。

これらのことから、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上での重要な視点として、次の二点に着目することとする。

- ・年間を見通し、段階的に育てる指導
- ・教育活動全体を通じ、組織的に育てる指導

(3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム作成の基本的な考え方

ア 「学級経営プログラム」とは

「学級経営プログラム」とは、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めるために、「年間を見通した段階的な指導」と「教育活動全体による組織的な指導」の視点に基づいて作成した年間の指導計画であり、学級において展開される教育活動の指導内容、活動内容、配慮点を示すものである。すなわち、「学級経営プログラム」は、学級担任の教師が、好ましい人間関係を育成するに当たっての年間の構想や指導の見通しをもったり、実際の指導計画を立案・運営したりするためのよりどころとなり、児童相互の好ましい人間関係の成立、発展、維持を図る学級経営を意図的、計画的に進めることを可能にするものであると考える。

イ 児童相互の好ましい人間関係を育てる「年間を見通した段階的な指導」

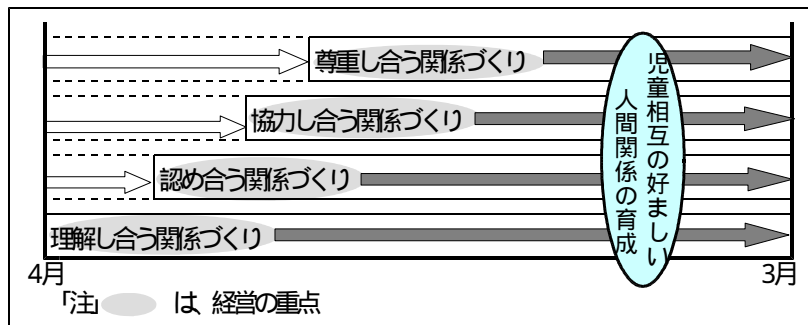
「年間を見通した段階的な指導」とは、児童相互の人間関係を好ましい関係へと育てる指導を段階的にとらえ、一年間の学級経営に位置付け、重点化を図る指導である。そこで、一年間という時間の経過の中で営まれる児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の段階的な指導を、先に述べた児童相互の好ましい人間関係を構成する四つの要素を基に、【表2】

【表2】 学級経営における児童相互の人間関係を育てる段階的な指導

段階的な指導	内容
理解し合う関係づくり	・互いに触れ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式などを理解し合う関係を育てる
認め合う関係づくり	・互いのよさや違いを理解し合い、認め合う関係を育てる
協力し合う関係づくり	・互いのよさを生かし合いながら、助け合い、共に協力し合う関係を育てる
尊重し合う関係づくり	・互いの思いや考えを理解し合い、互いを高め合い、尊重し合う関係を育てる

【表2】に示す「理解し合う関係づくり」「認め合う関係づくり」「協力し合う関係づくり」「尊重し合う関係づくり」の四つととらえた。

次に、四月から始まる一年間を見通し、児童相互の好ましい人間関係を育てる段階的な指導を学級経営の重点として配した指導構想を【図1】に示す。学級経営プログラムにおいては、この四つの段階的な指導に応じたプログラムを作成する。

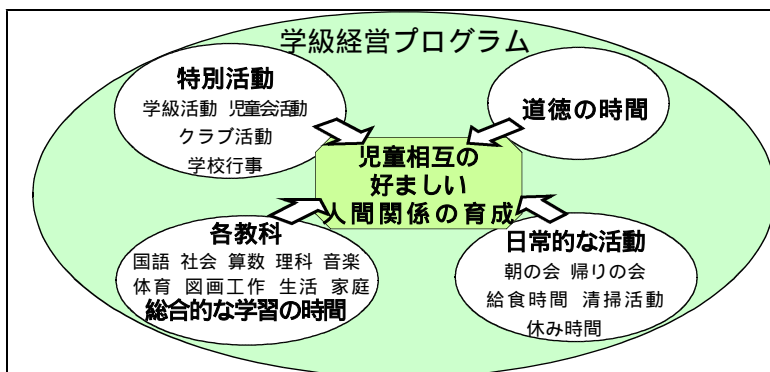


【図1】 児童相互の好ましい人間関係を育てる段階的な指導を学級経営の重点を配した年間指導計画

ウ 児童相互の好ましい人間関係を育てる「教育活動全体による組織的な指導」

「教育活動全体による組織的な指導」とは、学級で展開されるあらゆる教育活動において、児童相互の人間関係の育成を図る学級経営を機能させ、相互の関連を図ることである。学級において展開さ

れる教育活動には、「道徳の時間」「特別活動」「各教科」「総合的な学習の時間」「日常的な活動」がある。これらの教育活動における児童相互の好ましい人間関係を育てる指導・配慮が同じ方向をもち、関連が図られるとき、より効果的な指導が期待できると考える。そこで、【図2】に示すように、学級経営プログラムに各教育活動を位置付けた。

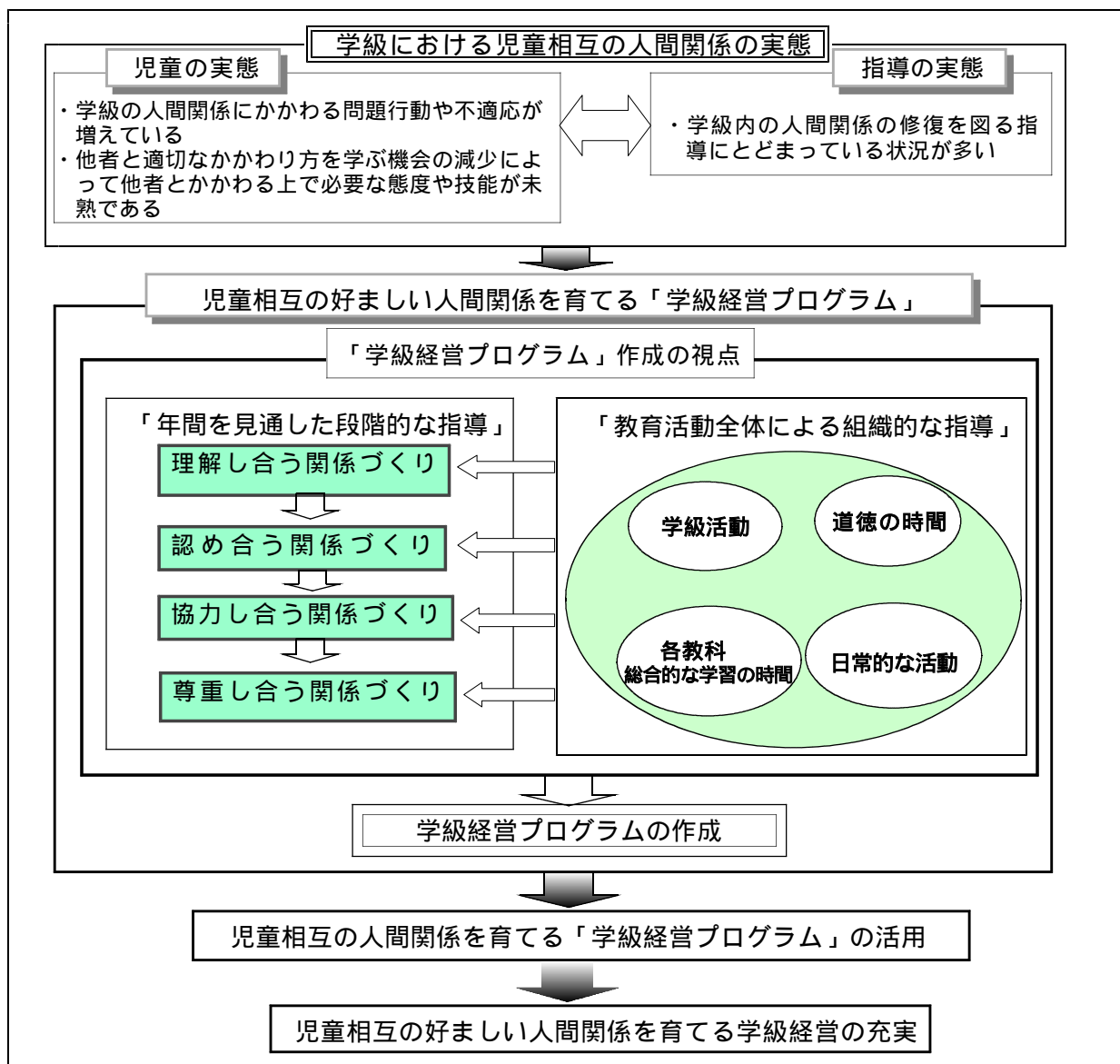


【図2】 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムにおける各教育活動のかかわり

なお、本研究において、「特別活動」は、学級を単位として行われる「学級活動」を中心に上げる。

(4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想図

以上の考え方に基づき、【図3】のように「児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想図」を作成した。



【図3】 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想図

## 2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

### (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成の方針

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成は、以下の方針に基づいて行う。

- ア 全学年に共通して活用できる学級経営プログラムを作成する。
- イ 一年間の学級経営を想定した学級経営プログラムを作成する。
- ウ 「理解し合う関係づくり」「認め合う関係づくり」「協力し合う関係づくり」「尊重し合う関係づくり」の四つのプログラムを作成する。

また、活用を図る上で目安となる実施時期及び児童相互の人間関係の育ちを示すこととする。

### (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成と活用の手順

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成と活用は、以下のように行う。

- ア 作成の手順
  - (ア) 四つのプログラムにおける指導のねらいを具体化する。
  - (イ) 各教育活動の特質を踏まえ、四つのプログラムの指導のねらいにかかわる各教育活動の指導内容、活動内容、配慮点を洗い出す。
  - (ウ) 四つのプログラムにおいて中核となる教育活動と関連する教育活動を位置付ける。
  - (エ) 四つのプログラムの活用上の留意点を検討する。
- イ 活用の手順
  - (ア) 実施学年の発達段階及び児童の人間関係の育ちに応じて活用する。
  - (イ) 四つのプログラムの実施時期を検討し、必要に応じて学級活動などの年間指導計画の調整を行う。
  - (ウ) 四つのプログラムの実施指導計画を作成する。
  - (エ) 指導実践を踏まえ、学級経営プログラムの改善・修正を行う。

### (3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの指導のねらいの具体化

四つのプログラムにおける指導のねらいを、一人一人の児童の姿に即して具体化し、【表3】に示す。

【表3】 四つのプログラムにおける指導のねらい

プログラム	指導のねらい
理解し合う関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な他者と知り合い、人間関係を広げさせる</li> <li>・他者とかかわる楽しさやおもしろさを体得させる</li> <li>・他者への気持ちよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる</li> </ul>
認め合う関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と他者のよさや違いを理解させる</li> <li>・自分と他者のよさや違いを認め合うことの大切さに気付かせる</li> <li>・自分の個性を伸ばし、多様性を認めようとする態度を育てる</li> </ul>
協力し合う関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を遂行する満足感や成就感を体得させる</li> <li>・他者と助け合い、協力し合うことの価値に気付かせる</li> <li>・他者を助け、他者に協力しようとする態度を育てる</li> </ul>
尊重し合う関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の気持ちや考えを共感的に理解させる</li> <li>・自分と他者を尊重した行動の在り方を考えさせ、学ばせる</li> <li>・人間関係にかかわる問題を自ら解決しようとする態度を育てる</li> </ul>

(4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの指導のねらいにかかわる各教育活動  
学級経営プログラムの四つのプログラムにおける具体的な指導の構想を立案するために、各教育活動  
の特質を【表4】のようにとらえた上で、具体的な指導内容、活動内容及び配慮点について検討した。

【表4】 児童相互の好ましい人間関係を育てる指導にかかわる各教育活動の特質

教育活動	特質
「学級活動」	・ 集団活動をととして、児童が他者と共に協力して生活する態度や他者とかかわる上での必要な行動の仕方などを計画的、発展的に指導することのできる教育活動
「道徳の時間」	・ 児童が他者と好ましい人間関係を構築する上で求められる道徳的価値の自覚を深め、実践することができるような内面的資質を育てることのできる教育活動
「各教科」 「総合的な学習の時間」	・ 学習集団を学び合いの場として機能させる中で、児童相互の交流を深め、共に学ぶ楽しさ、価値、意義に気付かせことのできる教育活動
「日常的な活動」	・ 自由な雰囲気の中での児童相互の触れ合いや交流を促したり、日常的な指導・配慮を展開したりすることのできる教育活動

#### ア 「学級活動」

「学級活動」には、学習指導要領に示される(1)と(2)の内容がある。それぞれにおいて児童相互の好ましい人間関係を育てる指導にかかわる内容は次のとおりである。

「学級活動(1)」における、集会活動、係活動などの組織作りや仕事の分担、生活上の諸問題を話し合う活動などは、児童が協力して学級の生活を向上させることを目指した内容であり、児童相互の人間関係の深まりを促すものである。一方、「学級活動(2)」に示されている内容のうち、特に「希望や目標をもって生きる態度の育成」「望ましい人間関係の育成」「基本的な生活習慣の形成」に関する内容は、児童相互の好ましい人間関係を育てる指導とかかわりの深い内容である。

そこで、学級経営プログラムにおいては、児童相互の人間的な触れ合いを深める集会活動や、共通の目的に向かって他者と協力して取り組む共同の活動、自他の理解を深め多様性に気付かせる体験的な活動を展開する。また、日常の人間関係にかかわる問題を取り上げ、解決を図る話し合い活動をととして、好ましい人間関係を構築していくための行動の在り方や具体的なかかわり方を身に付けることをねらいとした学習活動も位置付けていく。

#### イ 「道徳の時間」

「道徳の時間」には、学習指導要領において四つの視点から内容項目が整理され示されている。そのうち、「2主として他の人とのかかわりに関すること」が、自己を他者とのかかわりの中でとらえ、好ましい人間関係の育成を図ることに関するものである。この視点の内容項目は、「1主として自分自身に関すること」の視点の内容項目が基盤となっており、さらに、「4主として社会とのかかわりに関すること」の視点の内容項目に発展していくものとする。

そこで、学級経営プログラムにおいては、四つのプログラムの指導のねらいに応じて、「2主として他の人とのかかわりに関すること」の視点の内容項目を中心に、必要に応じて「1主として自分自身に関すること」及び「4主として社会とのかかわりに関すること」の視点の内容項目について、関連する道徳的価値を指導内容として位置付ける。四つのそれぞれのプログラムにおいては、児童の生

活場面や学習場面における体験や経験を生かしながら、ねらいにかかわる道徳的価値に対する理解を深め、内面化を図る学習指導の展開を進める。また、指導の成果が道徳的実践力となって発揮されるよう、教育活動全体をとおして活動の工夫をしていくなどの配慮を講じていく。

#### ウ 「各教科・総合的な学習の時間」

「各教科・総合的な学習の時間」において、児童相互の好ましい人間関係を育てる指導を展開する場合には、二通り考えられる。一つは、「各教科・総合的な学習の時間」の目標や内容に人間関係にかかわる価値が含まれ学習指導のねらいと重なる場合であり、指導内容は、各学年の「各教科・総合的な学習の時間」の年間指導計画に予め示されることになる。二つ目は、「各教科・総合的な学習の時間」の学習指導の過程において児童の人間関係を育成する機会や場を位置付けるなどの配慮を講じる場合であり、学年や「各教科・総合的な学習の時間」の別、時期を問うことなく取り組むことが可能である。したがって、学級経営プログラムにおいては、後者の立場から、指導内容、活動内容及び配慮点を取り上げる。

具体的には、児童間の交流を促す場を意図的に位置付けたり、他者のよさを理解させ、互いに学び合うことの価値や意義に気付かせる活動を取り入れたりするなどである。四つのプログラムにおける指導のねらいに応じて、特に取り入れたい指導内容、活動内容及び配慮点を検討し、位置付けることとする。

#### エ 「日常的な活動」

教育課程外の教育活動には、「朝の会」「帰りの会」「給食時間」「係・当番活動」「休み時間」などがある。教育課程内の教育活動と比較すれば、目的・内容・方法共に、計画的な性格は弱いと言える。しかし、それだけに学級担任の教師の創意工夫が発揮できる場であり、日常的・継続的な取り組みも可能である。

そこで、学級経営プログラムにおいては、「道徳の時間」「学級活動」「各教科・総合的な学習の時間」で学んだり、身に付けたりした人間関係にかかわる態度や行動の仕方を実践する場や機会として、さらには、継続した取り組みによって、日常化へとつなげる場や機会として位置付ける。

以上の各教育活動毎に述べてきた児童相互の好ましい人間関係を育てる指導にかかわる指導内容、活動内容、配慮点を踏まえ、「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説」「先行研究」「文献」を参考に、学級経営プログラムの四つのプログラムの指導のねらいに関連する具体的な指導内容、活動内容及び配慮点を洗い出し、整理した。

#### (5) 四つのプログラムにおける各教育活動の位置付け

(4)で検討した各教育活動の具体的な指導内容、活動内容、配慮点について、相互の関連性を考慮しながら精選し、四つのプログラムに位置付けた。また、四つのプログラムにおいて、指導のねらいの達成に最も重要であると判断した教育活動をプログラムの中核として位置付けた。

なお、位置付けたそれぞれの指導内容、活動内容及び配慮点と各プログラムの指導のねらいとの関連をそれぞれのプログラムに明示した。

#### (6) 四つのプログラムにおける活用上の留意点

四つのプログラムは図式化して簡潔に示すが、それぞれのプログラムにおける各教育活動の位置付けや、指導内容、活動内容、配慮点のねらいを補説するために、活用上の留意点を付記した。



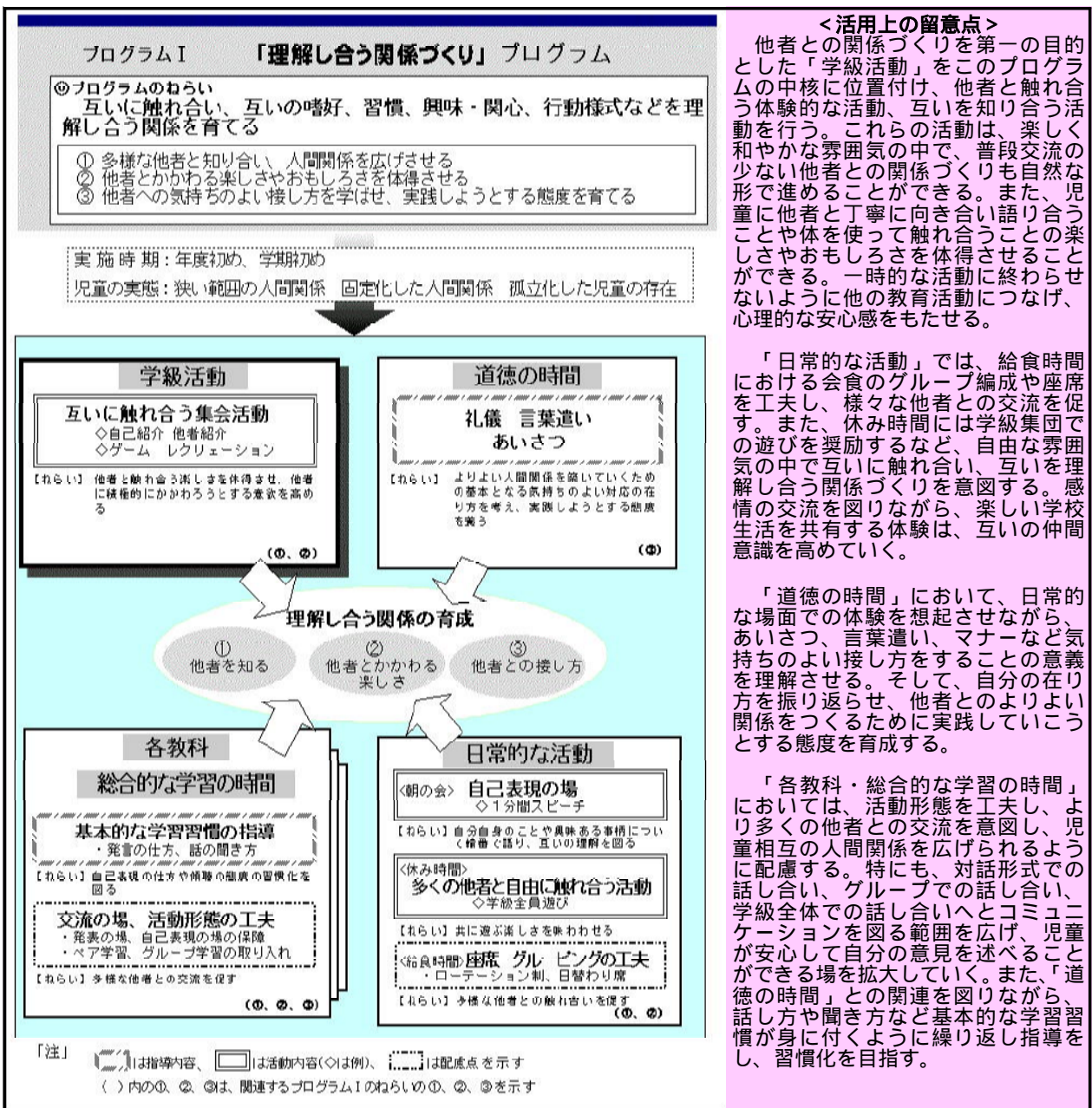
### 3 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム

「理解し合う関係づくり」「認め合う関係づくり」「協力し合う関係づくり」「尊重し合う関係づくり」の四つのプログラムを作成したが、ここでは「理解し合う関係づくり」プログラム、「認め合う関係づくり」プログラムを示す。

#### (1) 「理解し合う関係づくり」プログラム

このプログラムは、年度初めの早い段階で実施することを想定している。学級編成替えが行われた直後は、前年度まで同じ学級であった児童同士が集まり、狭い範囲での人間関係を形成している場合が多い。学級編成替えが行われない場合であっても、前年度からの人間関係が引き続き、人間関係の固定化の傾向や集団から孤立化している児童の存在も予想される。こうしたことを踏まえ、このプログラムは、児童相互の新たな人間関係づくりや人間関係の広がりを促していくものである。

児童が他者と関係を結び、互いに理解し合う関係を育てるためには、様々な教育活動において、社会的接触や交流をする機会や場を用意し、他者の習慣、嗜好、興味・関心、態度、行動様式などの理解を促す必要がある。また、同時に他者の話を傾聴する態度や他者への気持ちのよいかかわり方を身に付けさせる指導も必要である。このような指導を同時期に行うことによって、児童は安心して他者と触れ合い、本音で語り合い、他者とかかわる楽しさや喜びを感得することができると思う。



【図4】 「理解し合う関係づくり」プログラム

(2) 「認め合う関係づくり」プログラム

このプログラムは、児童相互の交流によって、相互に何らかの関係が形成された時期に行うことを想定している。学級集団内の人間関係は、時間の経過とともに児童間の交流が図られ、児童は心理的な選択をしながら他者との関係を結ぶようになる。その関係は、互いに対等である場合もあるが、時として、常に強いリーダーシップを発揮する児童とそれに従う児童との関係など、序列化した関係になっている場合がある。こうしたことを踏まえ、このプログラムでは、自他の多面的な理解を一層深めると同時に、互いのよさや違いを個性として認め合う人間関係づくりを目的とする。

児童が自分や他者を価値ある存在と認め受け入れるようになるためには、自分と他者のもつ多様なよさや違いを理解する場や機会を用意する必要がある。また、それらを価値あるものとして認め合うことの大切さに気付かせることが重要である。児童は、他者から肯定的に受け入れられることで、自分に対する理解と自信を深めながら、他者とより積極的にかかわろうとする態度を身に付けていく。

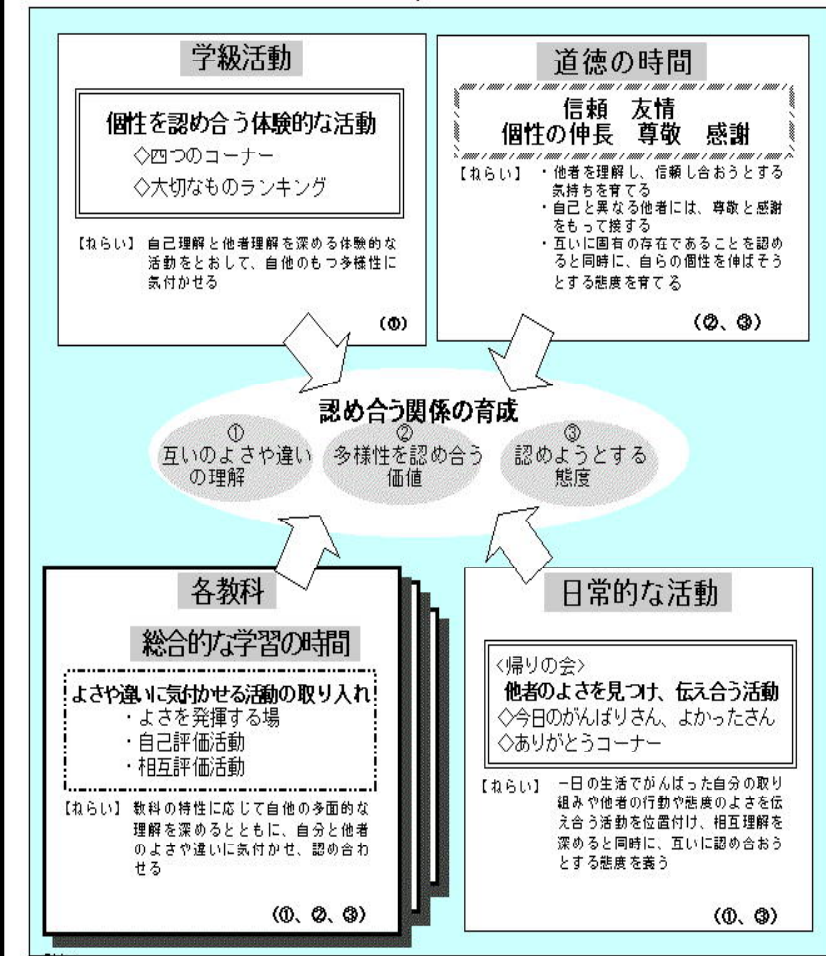
**プログラムⅡ 「認め合う関係づくり」プログラム**

◎プログラムのねらい  
互いのよさや違いを理解し、価値あるものとして、認め合う人間関係を育てる

① 自分と他者のよさや違いを理解させる  
② 自分と他者のよさや違いを認め合うことの大切さに気付かせる  
③ 自分の個性を伸ばし、多様性を認めようとする態度を育てる

実施時期：1学期 プログラムⅠの実施後の間もない時期  
児童の実態：序列化・膠着化した人間関係 強いリーダーシップを発揮する児童とフォロアー

**<活用上の留意点>**  
このプログラムにおいては、児童のもつ多様なよさを引き出すことができる「各教科・総合的な学習の時間」を中核に位置付ける。ものの見方や考え方や技能、知識、関心・意欲、態度など、「各教科・総合的な学習の時間」の特性に応じて、児童一人一人のもつよさを発揮する場や機会を設定する。また、自己評価活動や相互評価活動を取り入れ、互いのよさや違いに気付かせていく。その際、児童のよさや違いを価値付ける教師の働きかけを大切にしていく。



「学級活動」においては、身近な話題や事柄について、自分と他者とのものの見方や考え方や、価値観が異なることを構成的グループ・エンカウンターなどの手法を取り入れ、体験的に理解する活動を行う。

「日常的な活動」では、「帰りの会」において、「よさを見つける活動」を位置付ける。この活動は、日常生活・学習場面での互いの行動・態度のよさを見つけ、伝え合う活動である。互いのよさを見つけさせることは、他者を肯定的に理解しようとする態度を育成することになる。他者のもつよさを伝え合わせることは、多様な他者の存在に気付かせ、一人一人を価値あるものとして認識させることにつながる。さらに、児童に自己理解を促し、他者のよさを自分の行動や態度に取り入れ、自分のよさを伸ばしていこうとする態度を育てていくことができると考える。

「道徳の時間」においては、信頼、友情、尊敬、感謝、個性の伸長に関する内容項目を中心に扱う。互いを認め合う根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ、自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれ、他者を価値ある存在として認識できる。また、個性の伸長に関する内容項目を扱う学習指導は、自分を理解し、個性を伸ばそうとする態度を育てることをねらいとするものであるが、それは同時に、一人一人がそれぞれ固有の長所をもち、かけがえのない存在であることを理解させるものである。

【注】 [ ] は指導内容、 [ ] は活動内容(△は例)、 [ ] は配慮点を示す  
( ) 内の①、②、③は、関連するプログラムⅡのねらいの①、②、③を示す

【図5】 「認め合う関係づくり」プログラム

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

2 年次研究の第 1 年次の研究成果の概略については、次のとおりである。

- (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営に関する基本的な考え方では、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で、「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」の二つの視点の必要性を明らかにすることができた。
- (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想では、基本的な考え方で明らかになった視点に基づき、学級経営プログラム作成の基本的な考え方を検討し、各教育活動の関連を図った、四つのプログラム「理解し合う関係づくり」「認め合う関係づくり」「協力し合う関係づくり」「尊重し合う関係づくり」の作成の見通しをもつことができた。
- (3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成に当たっては、基本的な考え方と基本構想で述べた作成の視点を基に、四つのプログラムの指導のねらいの具体化及び内容として盛り込む各教育活動の指導内容、活動内容、配慮点の検討を進め、その結果、四つの学級経営プログラムを作成することができた。

### 2 今後の課題

本年度の研究をふまえ、学級経営プログラムに基づく実践をとおして、小学校における児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方について、実践的、事例的に究明していくことが今後の課題である。なお、実践にあたっては、児童相互の好ましい人間関係を育てるための視点について、更に検討を加え、学級経営プログラムを構想していくことが必要である。

## 【参考文献】

- 岸田元美、「人間的接触の学級心理学」, 明治図書, 1980
- 下村哲夫・天竺茂・成田國秀,「学級経営実践講座 学級経営の基礎・基本」, ぎょうせい, 1994
- 押谷由夫,「総合単元的道徳学習論の提唱」, 文溪堂, 1995
- 永岡順・奥田眞丈 編,「新学校教育全集 学級・学年経営」, ぎょうせい, 1995
- 井上祐吉,「学級集団経営」, 明治図書, 1996
- 蘭千壽・古城和敬 編,「教師と教育集団の心理 対人行動学研究シリーズ 2」, 1996
- 埼玉県立北教育センター,「児童生徒の好ましい人間関係を育てる指導法の研究」, 1998
- 栃木県教育研究所,「豊かな人間関係を育てる学級経営」, 1999
- 押谷由夫・伊藤隆二 編著,「新小学校教育課程講座 道徳」, ぎょうせい, 1999
- 平井文雄・富山保・平林俊彦,「新しい学級経営の条件」, 学陽書房, 2000
- 菊池章夫・堀毛一也 編著,「社会的スキルの心理学」, 川島書店, 2002
- 津村俊充 編,「子どもの対人関係能力を育てる」, 教育開発研究所, 2002
- 田上不二夫 編著,「対人関係ゲームによる仲間づくり」, 金子書房, 2003
- 山形県教育センター,「変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究」, 2003
- 佐賀県教育センター,「豊かな人間関係を育む学級経営の進め方に関する研究」, 2003